

## § 三刀屋内水面分場関係

# 淡水魚種苗生産試験

佐々木 正明 , 梶田 恭道  
由木 雄一 , 狩野 武俊

### 1. 目的

県内の湖沼, 河川の漁業生産維持に併せ, 養魚の振興普及を図るため, コイの種苗生産を行ない, 河川・湖沼の放流用, 水田・溜池・池中の一般向け養殖用に配布すると共に, 養魚技術の指導, 普及を実施する。

### 2. 期間

昭和50年4月1日～昭和50年11月30日

### 3. 結果と考察

#### 1) 採卵・ふ化

4月中旬に親魚の雄雌選別を行い, 4月30日までに養成池の石灰消毒, 施肥(乾燥鶏糞)及び水張を終了し, 5月14日に追肥として硫酸を施肥し, 養魚池の準備を行なった。

ミジンコの発生は, 5月8日から認められたが, 5月12日に少量ながら全池に発生が見られたので, 1回目の採卵作業を5月11日, 2回目を5月15日に行なった。

採卵に使用した親魚の抱卵熟度には特に留意し, 採卵ふ化は良好で, ふ化率平均81.6%, 毛仔163.6万尾を得た。

採卵・ふ化, の結果は表1の通りである。

表1 採卵・ふ化状況

| 月日    | 種別 | 親魚数 |     | 採卵数              | ふ化率   | 備考                            |
|-------|----|-----|-----|------------------|-------|-------------------------------|
|       |    | 雄   | 雌   |                  |       |                               |
| 5. 12 | 真鯉 | 36尾 | 12尾 | ♀10尾分<br>推定100万粒 | 80%   | 5月13, 15日マラカイトグリーン5ppmで30分間薬浴 |
| 12    | 色鯉 | 12  | 4   | ♀4尾分<br>推定40万粒   | 80    |                               |
| 5. 16 | 真鯉 | 18  | 6   | ♀6尾分<br>推定60万粒   | 85    | 5月17, 19日マラカイトグリーン5ppmで30分間薬浴 |
| 合計    |    | 66  | 22  | 20尾分<br>推定200万粒  | 81.6% | ふ化毛仔1,6364尾                   |

## 2) 毛仔放養と青仔養成

毛仔は検苗し、5月20日、24日の2回に稚魚池に放養したが、放養尾数は300尾/m<sup>2</sup>を基準とした。

放養尾数の算定は、毛仔を白色の容器に1万尾を数え入れ、容器中の稚魚の密度を調整して、放養尾数の適正を計り放養した。

養成は、天然餌料に加え、水溶性の撒餌を併せ給与した。

餌料内容は、稚魚用配合餌料の粉末、小麦粉を調合し水餌として、池壁の周囲に均等に1日3回、10日間撒布給与した。

以後は練餌を吊餌として給与、練餌は粉末配合餌料、干鰯粉末、粘着剤に小麦粉を調合して、1日2回、1面に6~8箇所給与した。

毛仔放養直後より、全稚魚池にアオミドロが発生、その除去作業を反復して行なった。

青仔選別と稲田用種苗の配布に併せて、全種苗を取揚げて計数した。

尚、原虫寄生症(サイクロキイター)にかかり、ホルマリンの長時間薬浴に併せ薬剤の口経投与は、すべて練餌に混入した。

## 3) 黄仔養成

黄仔養成は、稚魚池10面(3,192m<sup>2</sup>)を使用した。使用池は、青仔取揚直後に、池底の水草アオミドロの除去、簡単な整池作業を実施して、石灰による池底消毒を行なった。

種苗は、青仔(体長3cm~4cm)を70尾/m<sup>2</sup>を放養し、黄仔の取揚時の成長目標は、体長10~13cm、平均魚体重20~24gにおいた。

取揚の結果、平均体長12cm、平均体重22gが60%を示したが、青仔放養から取揚間の歩留が38%と悪かったのは、7月13日の集中豪雨(50年7月災害)に見舞れ、三刀屋川が増水し、養成池が冠水して養成魚の一部が流失したためである。

給餌管理は、青仔養成に引続き練餌を1日2回吊餌として給与した。

毛仔放養から黄仔取揚げの養成結果は表2の通りである。

表2 養 成 結 果

| 種別 | 毛仔放養尾数  | 青仔取揚尾数 | 歩留  | 青仔放養尾数 | 黄仔取揚尾数 | 歩留  | 備 考            |
|----|---------|--------|-----|--------|--------|-----|----------------|
| 真鯉 | 1,000千尾 | 580千尾  | 58% | 250千尾  | 94千尾   | 38% | 最終歩留の悪いのは水害による |
| 色鯉 | 200千尾   | 64千尾   | 32% | —      | —      | —   |                |

#### 4) 餌 料

毛仔より、黄仔までの養成期間中に使用した餌料の種類並びに数量は表3の通りである。

表3 給 餌 量

| 種 別     | 青 仔     | 黄 仔   | 親 魚   | 合 計     |
|---------|---------|-------|-------|---------|
| 鶏 卵     | 20kg    |       |       | 20kg    |
| 小 麦 粉   | 175     | 271kg | 150kg | 596     |
| 配 合 粉 末 | 900     | 5,600 | 520   | 7,020   |
| 干 蛹     | 232     | 1,552 |       | 1,784   |
| 合 計     | 1,827kg | 7,428 | 670kg | 9,420kg |

#### 5) 配 布

生産種苗の配布は、市町村、農協、河川漁協を通じて配布した。

配布状況は表4の通りである。

表4 配 布 状 況

| 種 別 | 稲 田 用   | 放 流 用   | 溜 池 用   | 合 計      |
|-----|---------|---------|---------|----------|
| 真 鯉 | 94,800尾 | 55,000尾 | 42,000尾 | 191,800尾 |
| 色 鯉 | 28,500尾 | —       | —       | 28,500尾  |